

第3章 ラーニングコモンズ/ グローバル・ビレッジに関する実績

3.1 取り組みの概要

ラーニングコモンズ/グローバル・ビレッジ PT では、平成 26 年 4 月に運用を開始した雄飛館ラーニングコモンズにおける取り組みと、平成 28 年 4 月に運用を開始予定の（仮称）新 2 号館グローバル・ビレッジの 2 点について報告を行う。雄飛館ラーニングコモンズは、平成 25 年 9 月竣工の雄飛館に合わせて、半年間（平成 25 年 10 月～平成 26 年 3 月）の仮オープン期間を設けた後、グランドオープンした。仮オープン時より、施設の保守管理業務の補助を担う学生スタッフの雇用を開始し、ラーニングコモンズ/グローバル・ビレッジ PT の企画運営によるアクティブラーニング型イベントの実施、および学習支援サービスを展開して来た。グランドオープン以降は、地域社会人など、学外との連携によるアクティブラーニングの推進の他、学生スタッフによるイベント企画・運営、雄飛館ラーニングコモンズにおける視察対応、メディア掲載、出張講演など、積極的な広報活動を進めてきた。第 27 回日経ニューオフィス賞（近畿ブロック）において、「アクティブラーニング賞」を受賞した。

以上のラーニングコモンズでの成果を踏まえて、グローバル・ビレッジ PT では、現在、平成 28 年 4 月の運用開始に向け、本学グローバル・ビレッジ（仮称）のコンセプトに沿ったレイアウト設計、什器選定、教材・資料選定および運用方法の検討を進めている。また、（仮称）新 2 号館グローバル・ビレッジで行われるアクティブラーニング型授業と連携した外国語（主に英語）ワークショップの実施に向けて、英語多読やプレゼンテーション、英語ライティング等ワークショップの試行およびプログラムの設計・精査を施設の運営に先行して進めていく。

3.2 主な成果

本プロジェクトの主な成果は次の通りである。

3.2.1 ラーニングコモンズの取り組み

(1) 雄飛館ラーニングコモンズの本格運用開始

雄飛館ラーニングコモンズは、雄飛館の完成（H25 年 9 月竣工）に合わせ、H25 年 10 月 2 日に仮オープンし、H26 年 4 月 9 日にグランドオープンした。雄飛館ラーニングコモンズは、本学のラーニングコモンズのコンセプト（平成 24-25 年度実施報告書にて報告）に基づき、学生のニーズに適した学習空間として展開している。

雄飛館ラーニングコモンズでは、学生の正課外学習の場として利用されているだけでなく、多数のアクティブラーニング形式の授業・イベントが実施されている（821 件/H27 年 1 月 16 日現在）。アクティブラーニング形式の公開授業実施の際、教職員は、実施場所や什器レイアウトについて専門スタッフ（ラーニングコモンズ担当職員）と事前に相談しながら学生の主体性を引き出すための効果的な方法を検討した上で、相応しい実施場所を選択し、利用に適した ICT 機器、レイアウトを活用し実施している。

例をあげると、H26年度より文化学部大平客員教授の会津若松、島根川本町、京都錦林の3小学校と司書課程科目「学校経営と学校図書館」履修生との交流授業を中心とした教育プログラムの設計・実施支援もラーニングコモンズ担当職員が行っている。この教育プログラムの成果はH26年8月にモスクワ（ロシア連邦）にて開催されたIASL国際会議（International Association of School Librarianship Conference）によるポスターセッション、H26年9月の教育工学会第30回全国大会にて報告された。またほかにも、外国語学部国際関係学科ゼミによる香港中文大学との交流学习（H26年6月）や、理学部物理科学科の合同中間報告会/ポスターセッション（H26年11月）、経営学部ゼミ成果報告会（H27年1月）などが実施されている。

さらに、学生の正課外学習を支援し促進するために、アクティブラーニング型公開講座「時事問題ミニセミナー」と銘打ち、本学教員による「TPP」を軸においた講座が計3回実施された（H26年4月～6月）。

政府（外務省）による北米地域の青少年との交流事業「KAKEHASHIプロジェクト」では、定期的な研修会の開催や、参加学生によるチーム練習、個人練習がラーニングコモンズの各スペースを利用して日常的に行われており、H26年6月には南フロリダ大学の学生との交流会がラーニングコモンズをメイン会場として実施された。プログラム序盤では本学学生が日本や京都の文化について様々な角度からプレゼンテーションを行い、終盤のグループディスカッションでは、両大学の学生が、京都の文化や、大学生活・教育などについてICT機器やホワイトボードを積極的に活用して活発な意見交換を行った。

これらのアクティブラーニング型公開講座やイベントは、ラーニングコモンズ利用者が自由に見学、参加することが可能であり、学内の活性化に繋がっている。

表3-1 学生によるイベント企画（2015年1月現在）

	日時	イベント名	参加者数
1	4月9日	雄飛館ラーニングコモンズグランドオープン記念式典	77名（学外含む）
2	4月30日	ICTセミナー「第1回 モニタの使い方を知ろう」	6名
3	5月14日	「グループワークを活性化させるには？～あなたならどうする？～【導入編】」	11名
4	5月21日	紀伊國屋書店特別セミナー「読書っておもしろい！？～手始めにミステリーやファンタジーを読みましょう～」	24名
5	6月4日	「グループワークを活性化させるには？～あなたならどうする？～【実践編】」	13名
6	6月11日	グランドオープンセミナー「言葉で＜私＞を表現するー思いを伝えることの難しさ」	75名（学外含む）
7	6月18日	「《大学2,3,4回生向け》みんなで楽しく自己分析をしよう！」	10名
8	7月16日	「過去から未来へ「自分らしさ」を考える」	39名（学外含む）
9	11月19日	「宇宙箱舟ワークショップ」	25名（学外、見学含む）
10	1月14日	ICTセミナー「第2回『Prezi』に触ってみよう」	9名

(2) 学生スタッフによるアクティブラーニング型イベントの実施

H26年4月のオープン以降、学生スタッフは、施設の保守管理業務の補助を行いながら、主体的な学びを体現すべく、グループワーク・ディスカッションを中心としたイベント企画を主催している（表3-1）。さらに、本学ラーニングコモンズの特徴を学内外に伝えるべく、ラーニングコモンズ紹介動画を自主的に作成し、公式サイトにおいて公開している（H26年4月）。

そのほかにも、定期的な勉強会を自主的に実施し、英語によるラーニングコモンズ見学ツアー勉強会や、ICT機器に関する研修会を通じて、スキル向上に努めている。

当初は教職員のサポートを必要としていたが、次第に自立し、自主的に企画メンバーを組織し、主体的にイベント準備・運営を行うようになった。またワーク内容に関しても、初期では参加者の能力に依存した傾向の強いワーク内容であったが、さまざまなイベント企画や、ラーニングコモンズで実施される他団体のイベント、授業等を勤務内外で体験することで、自らが働きかけ、参加者の意欲を引き出すことを目的としたワーク内容に変化した。

さらに、学生スタッフ企画イベントに参加した、学生スタッフ以外の学生の中から、自主的にワークショップや勉強会・セミナーを企画・実施したいという相談が寄せられており、ラーニングコモンズにおける学生スタッフの活動が学生の学内活動の活性化につながり始めている。彼らの主体的な学びの体現が、日経ニューオフィス賞「アクティブラーニング賞」受賞へとつながった。これらラーニングコモンズ学生スタッフ（LCS）の活動の成果は高等教育フォーラム（第5号、H27年3月刊行予定）、大学教育研究フォーラム（H27年3月）にて報告され、共有される。

(3) 日経ニューオフィス賞「アクティブラーニング賞」の受賞

雄飛館ラーニングコモンズは、「第27回日経ニューオフィス賞（近畿ブロック）」において、「アクティブラーニング賞」を受賞した（H26年8月）。

日経ニューオフィス賞は、日本経済新聞社と一般社団法人ニューオフィス推進協会（NOPA）



図3-1 ラーニングコモンズ学生スタッフメンバーと担当職員

共催・経済産業省後援で、「感性を刺激し創造性を高めかつ運用管理が適切なオフィス空間」を表彰するものである。H26年4月のグランドオープン以降、ラーニングコモンズでは、ディスカッションやプレゼンテーションといった相互理解のために社会的に必要な活動を日常的に行い、予測困難な時代において最善策を導くための基礎力と、主体的に学び、考えるという学習態度を養うべく、ゼミ活動や個人の使用だけではなく、ラーニングコモンズ学生スタッフ主催のワークショップや公開セミナー、参加型のイベントなど、様々な取り組みを実施した。とりわけ、学生スタッフによる主体的な活動が評価され、「これからのオフィスワークにおいて必要とされる活動のかたち」として、本賞の受賞につながった。

(4) 地域社会人など、学外との連携によるアクティブラーニング

H26年4月のオープン以降、ラーニングコモンズでは、キャリア科目「企業人と学生のハイブリッド」、「O/OCF-PBL2」、NPO法人グローバル人材開発センターが後援する「グローバル

表3-2 学習支援サービスの展開に関する研究報告一覧 (2015年1月現在)

日時	大会名	発表内容	発表者	種別
2014年5月17日(土)	関西地区FD連絡会議 2014年活動報告会	「ラーニングコモンズにおける学習支援の取組～多様な学習スペースを活用した学習支援の可能性とICT支援の展開～」	千葉美保子・呉斌傑・尾崎良子・中沢正江・松井きょう子	ポスター発表
2014年9月20日(土)	日本教育工学会	「多様な学習スペースを活用した学習支援の試み—雄飛館ラーニングコモンズ—」	千葉美保子・松井きょう子・呉斌傑	口頭発表
2015年3月1日(日)[予定]	大学コンソーシアム京都第20回FDフォーラム	「雄飛館ラーニングコモンズにおける学習支援/教育支援～多様な学習スペースを活用した学びの実践事例報告～」	千葉美保子・松井きょう子	ポスター発表
2015年3月13日(金)[予定]	第21回大学教育研究フォーラム	「学生の主体的な学びを支援する仕組みづくりに向けて—学生へのヒアリング調査から—」	千葉美保子・松井きょう子	口頭発表
2015年3月14日(土)[予定]	第21回大学教育研究フォーラム	「雄飛館ラーニングコモンズでの学生スタッフ活動による学生の成長と全学的学習活動への波及効果」	松井きょう子・千葉美保子・雄飛館ラーニングコモンズ学生スタッフ	ポスター発表
2015年3月末刊行予定	高等教育フォーラム第5号	ラーニングコモンズにおける学生スタッフ活動を通しての学生の成長	石田悠・笹山晴菜・山口由利子・糸智也・千葉美保子・松井きょう子	実践事例
2015年3月末刊行予定	高等教育フォーラム第5号	多様な学習スペースを活用した学習支援・教育支援の試み—雄飛館ラーニングコモンズにおける新たな学びへの支援—	千葉美保子・松井きょう子・中沢正江	実践報告

人材 PBL」等の科目履修に伴い、地域社会人と学生とがグループとなり、授業時間内外を問わず議論する姿が日常的に見られている。

H26年5月に開催されたセミナー「読書って面白い!?! ～手始めにミステリーやファンタジーを読んでみよう～」では、紀伊國屋書店梅田本店の小泉真規子氏を講師に迎え、ラーニングコモンズ学生スタッフによる司会のもと、地域社会人としての視点から、本を読むことをテーマにしたディスカッション形式での講演が行われ、本学学生と活発な意見交換を行った。さらに、H26年7月のラーニングコモンズ学生スタッフと京都府庁との連携ワークショップ「過去から未来へ～自分らしさを考える～」では、非営利活動法人日本キャリア協会の協力のもと、2012年度「O/OCF-PBL2」授業において開発された「人生すごろく『金の糸』～golden thread～」を活用し、学生スタッフと京都府職員とが共にコンセプト設計からワーク内容の検討、そしてワーク運営をラーニングコモンズにて行い、イベントへは本学学生はもとより、他大学からも参加があった。

H27年1月に開催された卒業生による講演会・シンポジウム「グローバルな時代にふさわしい職業人をめざして」においては、海外企業で活躍をしている本学卒業生を講演者に迎え、在学中の留学経験や、在籍している企業に関するプレゼンテーションを通じて、在学生との活発なディスカッションを実施した。地域社会人には、このようなイベントや施設の利用を通じて、本学の他の授業の様子について見学する機会を提供している。

また、入学プロジェクトチームの報告にあげているが、本学附属高校との連携を全学的に進め、H27年度以降、高大連携FDをラーニングコモンズにおいても展開する。今後グローバル・ビレッジ（仮称）につながる取り組みも含め、さまざまな形式のアクティブラーニングを推進していく。

(5) ラーニングコモンズにおける学習支援サービスの展開

雄飛館ラーニングコモンズ内に、ICTカウンター(2階)及び学習支援カウンター(3階)を設け、H25年10月から、ICTに関するサポート・サービス(学生スタッフが対応)、日本語/英語ライティング及びプレゼンテーションの学習支援サービスの試行を開始した。更に、ラーニングコモンズ・学生スタッフ(LCS)の雇用をH25年12月から開始し、エントランスカウンター・スペースを設置し、学内の様々な学習支援について案内することが可能になった。H26年4月からは日本語ライティング、ICT支援担当の専門スタッフを新たに雇用し、学習支援カウンターを英語自学自習システムのヘルプデスクとして機能を拡充させた。

現在、学内に点在している既存の学生支援サービスの窓口としての機能を充実させるべく、各学生支援制度の提供団体、部署との連携を進めている。図書館とは、利用教育を実施している情報サービス担当職員との定期的な意見交換や、日本語ライティングに関するワークショップの実施などにおいて、連携を強めている。さらに、学生留学アドバイザーを擁する国際交流センターとは、H26年度に実施された留学祭(H26年4月、10月)の情報提供・発信を連携して実施し、グローバル・ビレッジ(仮称)へつながる取り組みとして引き続き連携に取り組んでいる。

学習支援スタッフは、学生に対する日本語/英語ライティング及びプレゼンテーション、英語自学自習プログラムの個別相談対応を展開している。H26年度では、サギタリウス・チャレンジ「スピーチコンテスト」受賞者、「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」第1

期派遣留学生に対するプレゼンテーション相談対応を通じ、サポートを行った。

さらに、ラーニングコモنزの利用促進と学生の正課外学習を支援する目的で、英語/日本語のワークショップ、英語自学自習プログラムの自習勉強会を昼休みに実施した。これらは学習支援スタッフが担当している。

また、授業連携の試行として授業の1コマを利用し、学習支援スタッフによる出張ワークショップをラーニングコモنزにて実施している。

その他恒常的な教職員に対する教育プログラム支援、学生に対する学習支援、アクティブラーニング形式のイベント実施支援を通じ、学生の主体的な学びを促進し本学のアクティブラーニングを推進している。

尚、本取り組みは関西地区FD連絡協議会（H26年5月）、日本教育工学会第30回全国大会（H26年9月）、高等教育フォーラム第5号（H27年3月刊行予定）等により学内外に発信している（表3-2）。

(6) 雄飛館ラーニングコモنزにおける視察対応、メディア掲載、出張講演

H26年度は学内外の機関を対象に、下記の活動を行った。

・先行事例の視察を目的に雄飛館ラーニングコモنزを視察に訪れた教育機関一覧

	来訪大学	来訪日	来訪目的
1	摂南大学	5月16日（金）	ラーニングコモنزにおける設備、什器に関するヒアリング
2	大手前大学	6月16日（月）	ラーニングコモنز視察、および雄飛館1階ブックセンター Ascella、図書館視察
3	創価大学	6月18日（水）	ラーニングコモنز先進的事例の視察、学生スタッフ運用に関する情報交換
4	台北大学	6月24日（火）	ラーニングコモنز視察
6	京都市総合教育センター	7月1日（火）	ラーニングコモنز視察
7	NPC 大学問題研究所	7月1日（火）	ラーニングコモنز視察
8	北陸大学	7月30日（水）	ラーニングコモنزにおける設備、什器に関するヒアリング
9	日本大学	9月18日（木）	ラーニングコモنز視察
10	長岡大学	10月18日（土）	ラーニングコモنز視察
11	産業能率大学	10月23日（木）	ラーニングコモنز、図書館ホール視察
13	明治学院大学	11月20日（木）	ラーニングコモنز視察
14	東洋大学	12月4日（木）	学習支援施設の視察（ラーニングコモنز、教育支援研究開発センター他）
15	華東師範大学	12月2日（金）	ラーニングコモنز視察
16	中部大学	1月14日（水）	ラーニングコモنز先進的事例の視察、学生スタッフ運用に関する情報交換

※その他、企業視察・イベント参加等による来訪が多数あった。

・メディアへの取材対応、および活動内容に関するメディア掲載

掲載メディア	内容	掲載・発行日
日経 HR 社	『受験から就職まで親と子のかしこい大学選び 2015 年度版』	2014 年 6 月 17 日
京都新聞	「集って討論、専用空間「ラーニング・コモンズ」 京都の大学に続々」	5 月 4 日（電子版） 4 月 30 日夕刊掲載
朝日新聞	「関西の大学力 2014」	5 月 26 日朝刊掲載
朝日新聞	「歌人・永田和宏さん京都で講演」（公開セミナー「言 葉で<私>を表現する－思いを伝えることの難しさ」 関連記事）	7 月 1 日夕刊掲載
京都新聞	「W杯の強豪国“プレゼン” 京産大、公用語専攻の 学生」	6 月 5 日朝刊掲載 6 月 4 日（電子版）
KBS 京都 「news フェイス」	外国語学部「ワールドカップ応援プレゼン」	6 月 4 日 17:45 ~ 18:00 放送

・学外からの依頼を受けての出張講演

日時	大会名	発表内容	講演者
2014 年 7 月 4 日 (土)、25 日 (土)	『IT + 教育 最前線 2014』～ 新しい IT 教育を生み出そう～	『共に学び・共に創る』 ～ディスカッション・ プレゼンテーションを 促進する学習場～	中沢正江（学長室）
2014 年 11 月 20 日 (木)	「大学・高校実践ソリューション セミナー」	「ラーニングコモンズ で実現する新たな学び のスタイル」	松井きょう子（学長室） 千葉美保子（学長室）
2014 年 11 月 26 日 (月)	私立大学キャンパスシステム研究 会第 3 回第六分科会	「雄飛館ラーニングコ モンズにおける学習支 援の取り組みについ て」	中沢正江（学長室）

(7) 広報活動

ラーニングコモンズの周知や活用を促進するために、次のような広報活動を行った。

・公式ウェブサイトの公開

雄飛館ラーニングコモンズの公式ウェブサイトを 2014 年 4 月に開設した (URL <http://www.kyoto-su.ac.jp/global/lc/>)。同サイトでは、ラーニングコモンズの各スペースの紹介や、スペース利用方法^{*1}、ICT 機器の活用情報のほか、イベントカレンダーやイベント記録などを更新、配信している。

※1 Web 予約システム導入のため、現在編集中 (2015 年 4 月更新予定)。

・利用パンフレットの発行

雄飛館ラーニングコモンズのパンフレットを二種類発行した。ラーニングコモンズのコンセプトや各スペースの効果的な活用方法を紹介した学外者・教職員向けパンフレット (図 3-2-1) と、英語・日本語の二か国語に対応し、スペース紹介や ICT 機器・学習支援に関する紹介を掲載した学生向けパンフレット (図 3-2-2) を用意し、館内において利用者に対し配布している。

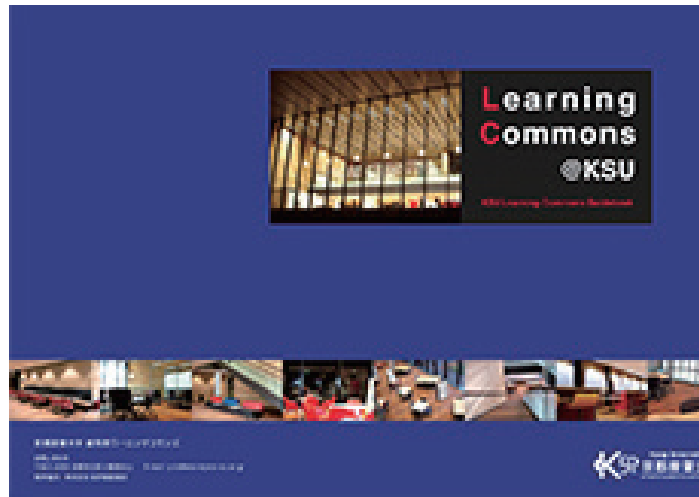


図3-2-1 学外者、教職員向けパンフレット



図3-2-2 学外者、教職員向けパンフレット



図3-3 紹介ムービーの公開（公式ウェブサイト）

・学生スタッフによる、紹介ムービーの作成、公開

ラーニングコモンズ学生スタッフが主体となって撮影・編集を行った雄飛館ラーニングコモンズの紹介ムービーを、4月のグランドオープンにあわせ公式ウェブサイト上で公開した（図3-3）。また、現在英語・日本語二か国語のラーニングコモンズ案内ツアームービーの作成を進めており、日本語案内ツアームービーは3月に公式ウェブサイトに公開し、英語版のツアームービーも2015年度春学期に公開を予定している。

3.2.2 グローバル・ビレッジプロジェクトの活動

(8) (仮称) 新2号館グローバル・ビレッジの設置準備

H26年4月にグランドオープンした雄飛館ラーニングコモンズでは、(仮称) 新2号館グローバル・ビレッジ（H28年2月竣工予定）が整備されるまでの間、グローバル・ビレッジ（仮称）で実施する予定の取り組みについても、試行する役目を担っている。グローバル・ビレッジ（仮称）が、語学力および異文化理解、留学へのモチベーションを高める事に特化した施設になる事から、グローバル・ビレッジ・ワークショップシリーズの試験的運用（H26年7月～H27年1月）や、国際交流センターと連携し、留学祭（平成26年4月、10月）、日本語・英語スピーチコンテスト（平成26年12月）などの国際交流イベントを実施した。H28年4月のグローバル・ビレッジの運用開始に向け、引き続きグローバル・ビレッジプロジェクトチームおよび、ワーキンググループにて、レイアウト設計、什器選定、教材・資料選定および、運用方法の検討を進めて行く。

(9) (仮称) 新2号館グローバル・ビレッジのコンセプト構築

下記のとおり、グローバル・ビレッジ（仮称）のコンセプトを構築した。

◆ コンセプト概要

グローバル・ビレッジとは、学生が異文化理解を深め、生きた語学力を身につけ、グローバルマインドを涵養する機会を提供する空間である。グローバルマインドとは、自己と他者の文化の相違を認め、尊重・理解したうえで、コミュニケーションを行おうとする精神のことである。文化の相違を認めるには、相手を知り、自分を知る必要がある。グローバル・ビレッジは、グローバル人材を養成することを目的とする。体験・実践型の異文化学習、国際交流の機会を提供することによって、自分自身のルーツである自国文化等を振り返るきっかけとさせ、学生のアイデンティティ形成を促していく。

◆ 既存の施設との差別化

グローバル・ビレッジも、ラーニングコモンズ（※ラーニングコモンズのコンセプトはH24-25年度実施報告書にて報告）と同様、主体的な学びを養う場ではあるが、大きな違いとして一番に挙がるのは、語学力および異文化理解、留学へのモチベーションを高めることに特化しているということである。それを実現するため、体験・実践型の異文化学習、留学生など文化的背景・価値観の異なる人々との国際交流の機会を効果的に提供するための施設・サービスが整備されている。異文化学習とは、英語に関連する項目に限定するものではなく、すべての言語に関わるものである。グローバル・ビレッジでは、会話スペースなど実践力を養成する場所も設けられる予定である。たとえば、映像コンテンツを数名で見た後に、感想を英語で話し合うディスカッションの場を設けるなど、リソースの提供だけにとどまらない活用が可能と

なる。

グローバル・ビレッジ（仮称）のコンセプトを構築するにあたり、以下のとおり、ファンクショナルコンセプト（機能コンセプト）とゾーニング・コンセプト（空間コンセプト）を構築した。

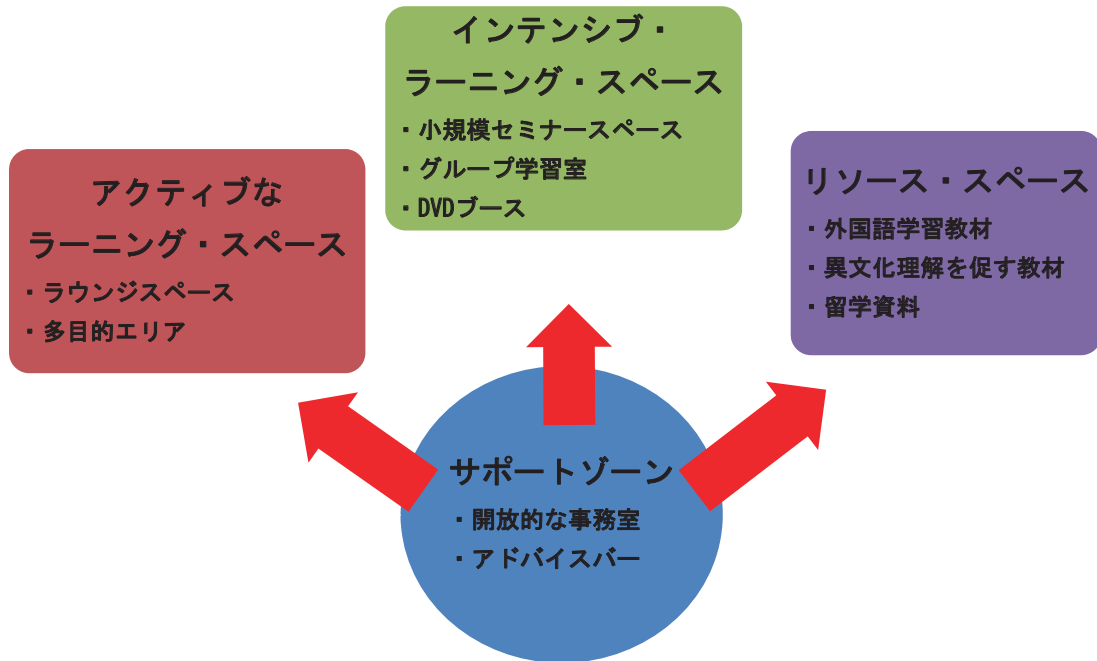
◆ ファンクショナルコンセプト（機能コンセプト）

ファンクショナルコンセプト（機能コンセプト）は、グローバル人材としての国際的なコミュニケーション力を養成する「語学学習奨励」と、グローバル社会に適応できる異文化受容力を持つ若者を育成する「異文化理解の機会」の2つの機能がある。その機能は、以下のとおり、適切な「リソース」と「ファシリテーション」によって成り立つ。



◆ ゾーニング・コンセプト（空間コンセプト）

ゾーニング・コンセプト（空間コンセプト）は、カジュアルなディスカッションや交流スペースのためのラウンジスペースと、アクティブ・ラーニング形式のグループワークやチュータリング、イベント開催に利用できる多目的エリアから成る「アクティブなラーニング・スペース」、アドバイザーとリンクした小規模セミナースペース、6～8人規模のグループ学習室（6～8室）とDVDスペース（10～16ブース）から成る「インテンシブ・ラーニング・スペース」、多読やテスト対策本などの外国語学習教材、文化紹介本などの異文化理解を促す教材と先輩学生の体験談などの留学資料から成る「リソース・スペース」、そして、これらをサポートする開放的な事務室とアドバイザーから成る「サポートゾーン」の以上4つのゾーンから成り立つ。



(10) グローバル・ビレッジ (仮称) ワークショップシリーズの試行

(仮称) 新2号館グローバル・ビレッジの運営が開始される H28 年 4 月以降、英語科目を中心とした授業との連携に向けて、グローバル・ビレッジワークショップシリーズの先行事例として、全学学生 (特に、初年次) を対象に、雄飛館ラーニングコモンズ (2 階) ワークショップスペースおよび、(3 階) ラーニングスペース (セミナー) にて、英語ワークショップシリーズ (春学期 2 回・秋学期 15 回) を試行した。

この英語ワークショップシリーズは、英語多読 Workshop (春学期 2 回)、英語スピーチ AtoZ (秋学期 4 回)、英語多読のすゝめ (秋学期 6 回)、英語ライティング (秋学期 4 回) と、クリスマス特別ワークショップ (秋学期 1 回) から構成されており、簡単な洋書の英語多読を通じて、楽しく英語に触れる機会を提供し、学内外の英語プレゼン / スピーチ大会参加や、英語による



図 3 - 4 英語多読 Workshop の様子

発表のスキルアップを促すことを目的としている。日常生活に必要な「聞く」、「話す」中心の英会話だけではなく、大学、大学院レベルの研究文献を大量に「読み」、専門分野について「書く」ために必要とされる「アカデミック英語」(English for Academic Purposes)の入門レベルとして位置づけ、英語ライティングの基礎を学び、A4・1枚程度のレポートを書く能力を身に付けることを目標とした。また、これらワークショップ全体を通じて、英語勉強会のコミュニティーを作り、学生のモチベーションを高めることを目標とした。

各ワークショップは、学生の気軽な参加を促すため、実施時間帯を昼休み(12:30～13:00)の30分間とし、学生の主体的な学びを養うアクティブ・ラーニング形式に沿って進められた。理系3学部(理学部・コンピュータ理工学部・総合生命科学部)によるグローバル・サイエンス・コース(GSCコース)の学生を中心とした参加があった(図3-4)。参加学生のアンケートからは、「今までの勉強とは違う感じで興味深かった」、「英語を気楽に考える機会を設けてもらい、心にゆとりができた」、「他の言語も学びたいと思った」、「試験勉強以外で初めて英語を読んだ」などの前向きな声を得られた。今後は、H28年4月の(仮称)新2号館グローバル・ビレッジの運営開始に向け、全学学生の参加を促すため、「授業と連携したワークショップ」を実施して行く予定である。

上記英語ワークショップの概要を一覧にすると、以下のとおりとなる。

<春学期> 英語多読 Workshop (全2回)

日時	内容
① 平成26年7月8日(水) 12:30～13:00	「英語を英語のまま理解するってどういうこと？」
② 平成26年7月22日(水) 12:30～13:00	「自分のことばで要約してみよう！」

<秋学期> 英語スピーチ A to Z (全4回)

日時	内容
①平成26年10月1日(水) 12:30～13:00	「英語スピーチ原稿を作成しよう！」
②平成26年10月8日(水) 12:30～13:00	「英語スピーチ原稿を推敲しよう！」
③平成26年10月15日(水) 12:30～13:00	「英語スピーチ発表の練習をしよう！」
④平成26年10月22日(水) 12:30～13:00	「英語スピーチ発表の仕上げをしよう！」

<秋学期> 英語多読のすゝめ (全6回)

日時	内容
①平成26年10月29日(水) 12:30～13:00	「洋書を読んでみよう！」(TOEIC400点以上)
②平成26年11月5日(水) 12:30～13:00	「英語で感想を言ってみよう！」(TOEIC400点以上)
③平成26年11月12日(水) 12:30～13:00	「英語で要約してみよう！」(TOEIC500点以上)
④平成26年11月19日(水) 12:30～13:00	「英語でディスカッションしてみよう！」(TOEIC600点以上)
⑤平成26年11月26日(水) 12:30～13:00	「英語でディスカッションしてみよう！」(TOEIC400点以上)
⑥平成26年12月3日(水) 12:30～13:00	「英語でディスカッションしてみよう！」(TOEIC500点以上)

<秋学期> 英語ライティング (全4回)

日時	内容
①平成26年12月10日(水) 12:30～13:00	「日本語ライティングとの違いは？」
②平成26年12月17日(水) 12:00～13:00	「英語ライティング3原則」
③平成26年1月7日(水) 12:30～13:00	「英文ライティング発展①」
④平成26年1月14日(水) 12:30～13:00	「英文ライティング発展②」

<秋学期> クリスマス特別ワークショップ (全1回)

日時	内容
①平成26年12月24日(水) 12:30～13:00	クリスマス・キャロルを読んでみよう！ ～英国作家チャールズ・ディケンズ～

(11) グローバル・ビレッジ (仮称) 他大学調査の実施

他大学におけるグローバル・ビレッジ (仮称) 類似施設の成功事例を調査し、本学グローバル・ビレッジ (仮称) 設置検討の基礎資料とするため、神田外語大学 (学事部) を訪問し、MULC (Multilingual Communication Center) および、SALC (Self Access Learning Center) の施設見学を行った。「施設面、運用面、教職員・学生スタッフ」の3項目について、ヒアリングを実施した。

<出張先>

日程	平成26年12月18日(木)
訪問先	神田外語大学 (MULC、SALC)
訪問者	小林満 (外国語学部教授)、遠藤美由樹 (国際交流センター事務室事務長)、 國正淳弥 (国際交流センター事務室) 以上3名

上記訪問内容の詳細については、出張・調査報告書 (参考資料として評価委員会当日に提出) にて、述べている。

3.3 まとめ

本章では、ラーニングコモンズ / グローバル・ビレッジに関する H25 年度～ H26 年度の成果について、ラーニングコモンズ / グローバル・ビレッジプロジェクトチームが記述した。3.2 では、本プロジェクトチームの立場からみて、本事業の成果として大きな意義を持つと考えるものについて、重点的に報告した。

本プロジェクトチームの主な成果は次の通りであった。

1. 雄飛館ラーニングコモンズの本格運用開始
2. 学生スタッフによるアクティブラーニング型イベントの実施
3. 日経ニューオフィス賞「アクティブラーニング賞」の受賞
4. 地域社会人など、学外との連携によるアクティブラーニング
5. ラーニングコモンズにおける学習支援サービスの展開
6. 雄飛館ラーニングコモンズにおける視察対応、メディア掲載、出張講演
7. 広報活動
8. グローバル・ビレッジ (仮称) の設置準備
9. グローバル・ビレッジ (仮称) のコンセプト構築

10. グローバル・ビレッジ（仮称）ワークショップシリーズの試行
11. グローバル・ビレッジ（仮称）他大学調査の実施

今後は、これらの成果を踏まえ、H28年度竣工予定の（仮称）新2号館グローバル・ビレッジの構築に向け、英語支援・ワークショップの試行を継続するとともに、レイアウト設計、什器選定、教材・資料選定およびスタッフの運用について、引き続き検討を行う予定である。